

## 令和2年度学校関係者アンケート結果についての考察一覧

評価項目		低学年	高学年	保護者
教育目標・教育計画	質問項目	①	①	①
	肯定的評価	91.5%	86.2%	96.6%
	考察	約8.5%の児童が否定的評価である。これは、昨年より1.2%下がった。新型コロナウイルス感染症により、4月～5月末まで休業であったことも要因の1つではあると考えられるが、学習面・交友関係等学校での児童の様子をより観察すること、個々の児童の困り感に寄り添うことが必要であると考ええる。	約14.0%の児童が否定的評価である。これは、昨年より1.8%下がった。新型コロナウイルス感染症により、4月～5月末まで休校であったことも要因の1つではあると考えられるが、学習面・交友関係等学校での児童の様子をより観察すること、個々の児童の課題を理解することが必要である。	子どもが楽しく学校に通っていると、ほとんどの保護者はとらえていると考えられる。
教科指導	質問項目	②③④⑤⑥	②③④⑤⑥	②⑤⑦
	肯定的評価	88.1%	90.6%	91.6%
	考察	97.7%の児童が②「好きな授業がある。」と回答。一方、④「授業中、自分の考えを発表する機会がある」においては、肯定的評価が、77.3%となっている。引き続き、学び合いの学習形態を推進する必要がある。	93%の児童が②「好きな授業がある。」と回答。一方、⑥「先生や友達に質問しやすい」において、肯定的評価が、84.7%で、90%以下となっている。引き続き、言語活動の充実を図ったり、学び合いの学習形態を推進したりする必要がある。	⑤「学校は基礎学力が身につくよう取り組んでいる。」が95.5%と信頼を受けている。②「授業が楽しい」という項目については、89.9%となっている。昨年より、1.6%上昇している。これは、昨年から取り組んでいる”できる喜びや考える楽しさなどを感じる「おもしろい授業づくり」”の成果と考えている。
道徳・特別活動	質問項目	⑫⑬⑭	⑫⑬⑭⑮⑯	⑫⑬⑭
	肯定的評価	92.3%	92.7%	95.9%
	考察	道徳教育、規範意識の育成の取組成果が現れている。	道徳教育、規範意識の育成の取組成果が現れている。しかし、⑮「委員会活動に自分から進んで取り組んでいる。」においては、70.6%と極端に低い。コロナ禍の中で、行事がなくなったり、縮小したことが原因と考えられる。	道徳教育、規範意識の育成の取組が家庭でも行われている。今後も、家庭と学校が連携を図りながら取り組んでいきたい。
人権教育	質問項目	⑦⑧⑩⑪	⑦⑧⑩⑪	③
	肯定的評価	94.2%	87.8%	92.8%
	考察	仲間づくりの観点では良好な児童がほとんどである。また、いじめのない学級づくりに対する教員の姿勢については、98.2%で伝わっている。	95.5%の児童は学校で友達に会うのは楽しいと回答しているが、悩みを相談できる友達がいる児童は87.7%である。児童同士をつなぐ取組を引き続き充実させる必要があると考える。また、いじめのない学級づくりに対する教員の姿勢については94.7%で伝わっている。	「いじめのない学校づくり」の取組が、理解されている。
生徒指導	質問項目	⑨	⑨	⑥④
	肯定的評価	87.6%	75.2%	93.0%
	考察	友達同士で解決できないような心配事があったときは、先生など大人に相談できるようにアプローチしていきたい。	昨年より6.3%上昇した。これは、自立心を育てるとともに、困ったときは先生など大人にアドバイスを受けることを指導してきた結果と考える。今後もさらに、自立心を育てるとともに、友達同士で解決できないような心配事があったときは、先生など大人に相談できるようにアプローチしていきたい。	多くの保護者が子どもの悩み事を学校に相談できると回答。子どものことで学校へ相談しにくい保護者にもアプローチをしていきたい。
安全管理	質問項目			⑧
	肯定的評価			96.3%
	考察			「東山子ども安全見守り隊」の方々の協力に感謝している。今後は、PTAの協力も得ることにより、さらに児童への登下校の指導を強化していきたい。
地域との連携	質問項目			⑨⑩⑪
	肯定的評価			94.7%
	考察			行事への参加、学校からの情報発信については、肯定的評価が高く、年々上昇している。